夕刊
磐城新聞
八月二十七日發行
定價 一ヶ月 金五拾錢（郵稅 拾五錢）
廣告料金 普通欄 一行金六拾錢 雜報欄 一行金九拾錢（五號十二字詰 一行）（場所指定 一行一圓）
編輯印刷兼發行人 福島縣石城郡平町田町十六番地 柏木哲
發行所 磐城新聞合資會社
電話五六四番
（月曜祭日翌日休刊）

東北振興策に就て

貴族院議員　金成通

六

恒久的對策は固より大切であります。併しながら今日の生活をどうするかと言ふことが、更に緊急欠くべからざる當面の問題であるのであります

然らば何が現下の東北にとつて應急策であるか、斯様に申しますならば、是は具体的に申しますと、色々ありませうが、救濟々々と申しまして、從來やつたやうな、恩恵的な、怠惰を誘ふやうな、遣りつ放しの救濟は宜敷くないと思ふ

主として一般産業の振興を促す所の現地に適切なる金融機關の設立とか、或は市町村に對する補給制度の加增並に賃貸價格の特別なる修正に仍つて、地租の減免と言ふやうな施設の外に軍需工業會社を東北に新設を致しますとか、或は移轉するとか、農林省の特殊方法の下に木工事業、畜産事業の助成擴張、又は道路、河川、港灣の改修並に豫定線鐵道工事の繰上着手とか言ふ風に、苟も政府の事業と致しましての手の及ぶ限り、即効的な、換言すれば農村に過剩する勞力を經濟的に消費し得る施設を火急に、明日と言はずに今日からと言ふ風に、成るべく早く御着手に相成ることが東北の民を救ふ途であると信ずるのであります。而して恒久的な施設は此應急的施設と併行致しまして、立案實行されむことを望むのであります

今回決定致しました東北振興のために設立さるべき電力會社並に興業會社、此の二つの會社は勿論必要でありますが、更に進んで只今輿論になつて居りまする東北を打つて一丸と致しまする、特別行政の區域としての東北廳の設置とか、一つの革新的な行政改革をもやることが必要であらうと思ふのであります。そうして産業的に、經濟的に東北を立直すことが、最も肝要な問題かと思ふのであります

東北振興は多角的に有らゆる角度から抜本的な政策を確立致しまして、そこに國家の力と國民の力とを協調せしめなければ、到底立直らないのでありまして、是は決して東北にのみ厚くして貰ひたい。斯う言ふやうな偏見ー甚くのではないのであります

東北地方の窮乏は我が國家的施設上、甚しく閑却されて參つたことに歸因する此の閑却されたことの累積がこの赤字である

哭鈴木素堂翁

珠雲　小野務平

滿腹經綸八斗方
多年縣政放光來
商人一去淚如雨
萬落千郡爵不開

夜

岡崎奈美

いく度かくり返せども
灰の文字くずれて見ねず
しばし——
か弱き焔をみつむ
眼にいたきその赤き色
眼とづれば瞼にあつき涙
かな

私の舞臺

私の舞臺は紙なのよ
白い冷たい紙なのよ
絢爛の舞臺みつめるその
ひまに
私はいつも思ふのよ
貴女の姿が薔薇ならば
私の姿は黒百合よ
やみの水底そこにある
私の心を誰がしろ

この頃集

○父ませし頃をしのびつ千蘭盂のさゝやかなれど仕度する母　大中阿沙枝
○うつり來てこの頃こゝに住みなれし夜毎をひたに里を戀ひしも　松村清
○露ふくむ若瓜畑に陽は延びて山の朝雲しげくゆき交ふ　渡邊美智夫
○水のいろ靑さまされり千波湖は山の濃みどりかげのうつりて　飯岡みどり
○ひそびそと夕陽の落ちて夏草にこもりてなけるこほろぎの聲　福岡武夫

8月28日 △大友義鎮西洋の洗禮を受く（天正六）△堀田大老殿中に刺さる（貞享元）△ゲーテ生る（一、七四九）△トルストイ誕生（一、八二八）△品川臺場築造（嘉永六）

七夕俳句大會句抄

主催靑陰發行所、後援磐城新聞社
期日　八月二十三日午後二時
會場　城山聚樂園
會者　二十五名

（上）

一、天の川

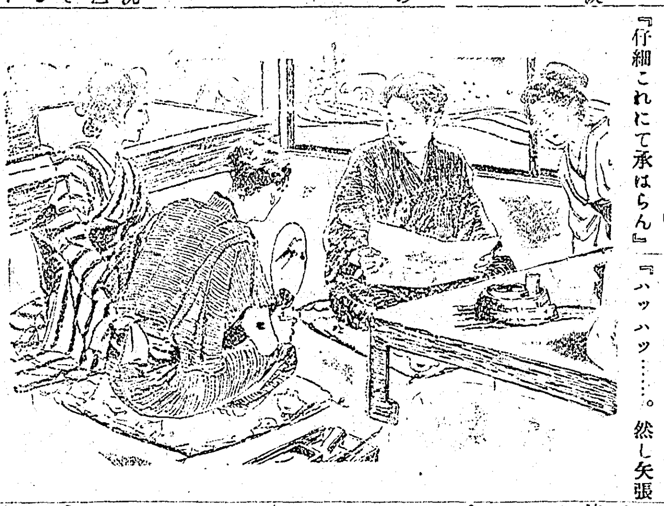
潮騒の渚に仰ぐ天の川　金成絹女
汐くみてそと仰ぎたり天の川　同
銀漢や泊りかさねて今日湖來　石川虚城
水郷や田舟の上の天の川　同
舗道更け銀河の冷えに人去れり　石橋柴子
天の川傾く窓をとざしけり　同
坑内を出て銀河の街の人となる　鈴木欣々子
礦山の灯の更けて靜けき銀河あり　同
ジャンガラのざよみは遠し天の川　赤井撒男
梟のよく啼く森や天の川　吉田耕人
境内の踊りくづれて天の川　同
坑内を出て銀河を仰ぐすがしさよ　星野柳櫻子
潮暮れて銀河うすうす生れけり　伊藤寒山子
薄雲をまとうて銀河光りそむ　同
港の灯次第に小さし天の川　鈴木傳蘭
銀漢や谷間へ落す仕舞風呂　佐藤紫雨
湖に近き住居や天の川　同
天の川かけてながるゝ星を見し　山下雀賓子
銀漢の十和田湖畔に泊りけり　足立牽牛子
城址の欅大樹や天の川　同
天の川澄むときいよゝ溪深し　金成磐洲子
天の川宵から長けて澄みにけり　同
黍の穂を鳴らす風あり天の川　渡邊武門
銀漢や摘みつくされし桑畑　同
外風呂に浸りてしばし天の川　秋山紀花
鑛泉の宿の早き夜空や天の川　金澤千保

小說　高橋是清

（103）　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

轉變無限（三）

藝妓は二人共、曾ての馴染だつたので、座敷へ戻ると
『隨分しどいお見限り』
『この土地には、もう娘氣がさしたと、仰言いますの！』
『それとも奥様でもお貰ひになつたとでも……』
『仔細これにて承はらん』



『いざとく語り候へかし』
と、左右から詰め寄つた。
『莫迦な。それどころの候か』
和喜次は頭を抱へて笑つた
『などとお遁げになるとは近頃御卑怯千萬の沙汰』
『眞直ぐに白狀して慈悲を願ふが爲よと申すものであらう』
『いゝ加減にせい。騒々しい奴共だな。少ししんみりしたらどうだ』
二人は顔を見合つて微笑した
『でせうねェ』
『心得へずに眞に失禮ばかり』
『橋さん』
と、一人が膝を進めると、聲を落して、
『しんみりと言へば、その後、どうしてゐるか御存知？』
と、その微笑の中から訊いた
『御存知……とは？』
『まあ、今更そんな……』
『う、あゝ、あれの事か』
『ホホホ……あれの事なの！』
『知らんな』
『聞きたい……でせう？』
『聞いた所で……』
『覆水盆に戻らず、落花枝に返らず、と言ふのでせう！』
『生意氣を言ふな』
『知つてる事は言つちまはないと損のやうな氣がしますのでね』
『ハッハッ……。然し矢張り東屋から元の名で出てゐるのか？』
『矢張り開きたいらしい』
『叶はん』
『聞かして上げませう。今では藝妓稼業はやめた儘でさる人と一緒になり、こゝが大事な所、日本橋で、待合をしてゐます、はい』
言つて、又笑つた
聞くと、和喜次も笑つて
『さうか』
と、應じたが、流石に、胸に殘つてゐるものがあつた。放蕩時代が今に續いてゐて、身も心も、その中に若し沒入してゐたとしたなら、おそらくは、この儘笑ひ捨てゝは、了へなかつたであらう、と、祕かに思つた。己を擧げて窓越しに見る、川面の水が急に寥々と感じられた
『感慨無量——でせう』
藝妓が又から言つて笑つた
『又ツベコベと吝嗇い奴……！』
氣付いて大聲で言ふと、二人共身を反らして聲高に笑つた
誰澄はまるで取殘されたやうな貌だつた、雛妓の一人に命じて硯と白紙を取寄せると筆を執つて運筆に書流したのを
『高橋ッ、見て呉れ』
と出した。受取つて
『相變らず達筆だな。どれ！』
讀み下したのは漢詩だつた

會逢隅田水心樓
銀燭華筵却惹愁
喚起三年以前夢
鴛鴦襟裡不知秋

『どうだ？』
誰澄に言はれて、思はず
『うん』
と、頷くと
『一言もあるまい。然し詠れるだけに君は幸福だ。俺などは喚起すべき夢もない。一度位君にあやかりたいと思つてゐる。矢張り人間若い中には、さうした夢も欲しいものだ。俺はそれを生れて以來……母の胎内に忘れて了つたのかも知れん』
言ふと藝妓の一人が
『可愛想なはこの子に候』
誰澄が腹を抱へて
『孟母三遷。場所柄だなあ！』
どッと又、哄笑が湧いた

▲ 友部株式店
株ハ一株ヨリ、債券ハ一枚カラ賣買致シマス。
平町三丁目　電話一一七七番

酒店員入用
二名　自轉車に乘り得るもの（靑年、壯年各一名）
仕込み、通勤、給料等面談の上
姓名在社

廣告
平町南町　大和田醫院　電話一七〇番
安齋外科醫院　平町田町　電四七五番

高久病院（電話五三一番）
平町田町
内科　小兒科　外科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科
醫學士 高久忠　新潟醫學士 赤松濟　藥劑士 佐竹衛雄

御中元大賣出し
毎度有がたう
新荷取揃へました、御贈答品は是非當店へ
田口はき物店　電三七七番
（商品券御利用下さい）

内科　外科一般　臓　花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院　電話三〇九

日本はニッポン。魚は凍魚
日本水産特約　御小賣
平製氷會社　電二二八・三二六番
鯛　銀鯛　北寄貝
マビ　甘鯛　帆立貝
白魚　甲イカ　目拔切身
ワカサギ　鰹　うに貝焼
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。
ヒノマル凍魚
卸賣代理店　四丁目　ト印魚問屋　電五二八番

御禮
生ビール發賣以來連夜豫定の樽數を賣盡し有難う存じます。就ては御禮として毎土曜日を黒ビールデーとして御奉仕いたします。
平會館　電六二四

お醬油は……ヤマフル
鹽屋　山崎合名會社　福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）
味噌醤油　たひら正宗　鰹節　食料品
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

お新盆提灯に御注意!!!
近年各地に於て再製提灯が市場へ出る爲め お贈りの方も買いた方も誠に迷惑され又失禮にもなりますので製造者の間に相談の上今年の品物へは必ず昭和十一年製靑色マークを入れてあります。御買求めの際は必ず御忘れなく昭和十一年製マーク入と御指命下さい。
昭和十一年八月
提灯同業組合

御知らせ
防虫劑　玉ナフタリン
左手一杯ツカミ取進上
開業三十週年記念謝恩デー大好評を博しましたにつき引續き 毎月十五日 を謝恩デーと定め御買上金五十錢以上の御客様に『玉ナフタリン』を差上ます。
アセモ・タヾレに妙藥
トフメルを無料でつけて上げます。
藥と衛生相談所　阿康藥局
平町古鍛冶町縣社の下
電話四四番　振替口座 東京三〇〇〇五

品質第一　電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

磐城の御みやげ品
名物　靈峰（みやま）羊羹　金十錢
姉妹品　柿羊羹。のり羊羹。沼ノ内辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元　平屋賣店　小川郷驛前

精神病科　脳脊髄病科　神經病科
内務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山脳病院
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生　電話九二五番
入院隨時
院長醫學士　金森五郎

常時能率二萬餘キロ
磐炭の電力自給完成
新鋭日立製作機運轉開始

磐城炭礦は出力常時一萬六千キロワツトの强大な能力を有する平發電所(大正七年建設)の外更に過般來六千キロ最大一萬七千キロの發電能力を有する日立製作所製作の機械一台を增設工事中であつたが、中央土木會社請負の建物と共に此程完成、去る廿四日火入れを行ひ、來月五日蒸氣を上げ試運轉の上同十日より三日間遞信省の檢査を受け、十四日より送電を開始する筈で、同社の電力自給は之によりその完成を見るに至つたものである

興奮に直面して
松野尾氏伯林通信抄 (1)

いよいよ今日は開會だ。伯林全市は今や白熱の坩堝に投げ込まれてゐる。街と云ふ街はオリムピック一色に塗られてスタデイアムに續くウンター・デン・リンデンは旗、旗、旗、その下を五十ケ國の人間が物凄い波をつくつて流れてゐる。獨乙自慢の飛行機が縱橫に空をかけ廻りツエツペリンはあの巨大の腹を全世界の人間に仰がせ乍ら悠々と飛んでゐる。兵も靑年も總動員だ、此の二、三日消防自動車を動員して、あの長い梯子で電氣その他の裝飾をやつてゐた

ナチの政府のオリムピック豫算は七千五百萬マルクと云ふが靑年團の勞働奉仕も加算すると實質一億マルクだらうとの事、政府が總てをやつてゐる

獨乙人は非常に親切だ、又愉快だ。日本人に特によいと云ふ人もあるが果してどうだか。然し街を歩いてゐると時々『水泳の選手か』ときかれる。日本の水泳も有名になつたものだ『ナイン』の頭を振つたら『ボクサーか』と來た。日本人は小さくても强いと思つてゐるのかも知れない

三十日の夜誘はれて伯林法學會の集りに出た。末廣田中、孫田三博士、各大學專門學校の留學生、長谷川統計局長、河野勞働代表等約二十名、ナチス法制の話も出たが結局は皆の頭がオリムピック色に染められて末廣博士の水泳談が面白かつた

日本の選手が割合に長くのろのろプールを泳いでゐるのは、流石の科學的獨乙人にも判らないらしい

ウンター・デン・リンデンからスタデイアム迄の沿道は午前十一時と云ふに觀衆列をなしてゐる。ヒットラー、ゲーリング等がオリムピックの火と共にやがてスタデイアムに行進するのだ。カーキ色の連中が順々に一列に並んだ。腰に短劍と水筒を下げて老若高低とりまぜて妙な軍隊だと思つたらこれが有名なナチス突擊隊だつた

僕の前の老隊員は胸に三つ四つの勳章を下げて長崎を知つてゐると云ふ。昨日次回開催地が東京ときまつてから急に注意をひくのか突擊隊員や傍の連中に名刺を三十枚程とられた。日本字が珍らしいのかも知れない、一々橫文字も書いて呉れと云つて、繰り返して文を讀んで喜んでゐる

石城の水の傳說
磐城民俗研究同志會 (4)

四、水界神話的傳說(龍、蛇、わに傳說其他)

△靑瀧　或年、旱天で村人が草野村絹谷靑瀧の水を引かうとした時、唯一の水の出口が大蛇に塞がれてゐるのを發見した。一人の若者が刀を啣へて飛込み幸に大蛇を斬る事を得たが、水は紅に染まり血飛沫は更に傍の櫻の木にもかゝつた。後、この櫻を血櫻といひ伐れば中から血が出ると傳へる。今も恐れて此處で泳ぐ者とてない

△堀坂の堤　內鄕村堀坂國道の傍に深い沼があつて水が淀んでゐる。近い山上に傘狀の松があつた爲にこの堤を昔は傘松の堤と呼んでゐた。沼の主は大蛇で片眼であつた。そこでこの堤にすむ鮒も盡く一眼を閉じた隻眼であつた

△大瀧　好間村町田川の上流大瀧での二百年以前の話、高野(現箕輪村大字)の獵人が大蛇の後方より鐵砲をうちかけ、蛇は煙にむせて川に墜ち流された。町田橋に引掛つて骨がくだけたが、その骨は同村大字某宅に保存されてゐるといふことである

△相馬侯と鮫　錦村松川磯に一匹の大鮫がすんでゐた。時に岸邊に現れることがあつたが、村人は酒を與へたりして大事にしてゐた。その頃相馬の殿樣がこゝを通つたが、何も事情を知らぬことゝて矢でかの大鮫を射た。鮫は直に水中に沒したが、それから後再び鮫川を渡らうとした時、先廻りして姿を現しては邪魔をするので、渡ることが出來ない。鮫は背中に矢を負つてゐ。併し乘り物の馬が名馬であつたので漸く逃がれることが出來た。なほそれからといふもの相馬侯が松川磯を通る每に必ず降雨があつたといふ

△龍馬　夏井村下大越に二間四方位の沼があるが、靑沼中より名馬が出たといふことで、尾の長さは一丈許りであつた。安祥院に今でも殘つてゐるとの話

△鰐ケ淵　双葉郡久ノ濱の鰐ケ淵は昔この海岸に鰐が居て近くの寺の娘を欲しがつてゐた。成日娘が緣で裁縫をしてゐるのを見て口に啣へて淵中に沈んだ。父は不在であつたが歸つて見れば娘が居ない、多分かのわにの仕業に違ひないと見て取つて寶刀を携へ淵に馳けつけて見ると、丁度鰐が水面に顏を出した處なので斬り殺した。やがて娘の死體も水面に浮いた。鰐は美靑年になつて現はれたとも言はれてゐる

二百十日も無事に
朗かな豐作行進曲
測候所の嬉しい觀測

◇實る秋！ヂリ〳〵照り續いた暑さもどうやら過ぎて今日この頃の朝夕の涼しさ——この順調な天候に惠まれて稻は日每にのびて行くので百姓さん達は『この分で行けば大したものだ、それに繭の値もよいし……！』と早くも『豐作型』を豫想してホヽ笑んでゐる

◇だが心配なのは何と云つても二百十日だ、愈よ來月一日に迫つた當日の天候を小名濱測候所に伺ひをたてると

『二百十日前後沖繩附近にある二三五ミリの高氣壓が漸次北進して日本海に出るため多少天候がぐづつく傾向はあるが農作物に被害を及ぼすほどのことはなからうと見られて居りますから安心して可なりでせう』

と云ふからこれで先づ農家の厄日は無事に過ぎるやうだし愈よ朗かな『豐作行進曲』が村々に奏でられると云ふものだ

營業者の自覺から
曾て無い好成績
地方今夏の印紙稅檢査

平稅務署の印紙稅定期檢査は去る十八日より一昨二十五日迄郡部方面の分を執行したが既に人員六百七十三人二萬二千五百件に達し前年の全管に亘る成績に比較すれば未だ人員に於て六名の及ばざるものあるも件數に於て三千八百六十二件の超過を示した上尙は明後二十九日より三十一日迄執行する

平町　神谷　飯野　草野　平窪　赤井

の一町五ケ村が殘つて居るので之を合算すると恐らく實に劃期的好成績であり、稅務署では右の現象を以て各營業者間の印紙稅に對する納稅觀念の飛躍的向上に因るものとして非常に喜んでゐる

大演習の北海道へ
平署から應援隊
六警察官選拔さる

來月下旬から北海道で行はる大演習に際し平署からの應援警察官は左の如く決定來月二十日頃出發約三週間滯在する、尙縣下からは七十名であると

草刈部長　熊田刑事　遠藤巡査(以上本署)　井上(鹿島)　菊地(湯本八仙)　金澤(平川)

平安會法要

平舊藩より成る平安會では廿七日午前十一時から同町良善寺で戊辰役戰歿者の第六十九回慰靈祭を行つた

御祝儀値を破る
四倉市場第二日取引

四倉繭市場第二日目の取引相場左の如く御祝儀値より貫十錢高

高四圓七〇錢　安四圓三〇錢　中四圓五〇錢　掛目三五　出荷二七六貫

縣參事會員 出納檢査

來月二日郡下へ

縣參事會員は二班に分れ來月二日より六日まで左の日割で石城地方の出納檢査を執行する

◇甲班(大竹　小野　菅野　菊池)　△九月二日植田警察署　△三日回春園　△四日平土木監督所　△五日平稅務出張所、磐城高等女學校　△六日四倉警察署、四倉港修築事務所

◇乙班(大木　渡邊　野崎　高野　物江)　△二日水產試驗場、水產講習所　△三日平警察署　△四日磐城中學校、鑛業取締平支所　△五日夏井川改修事務所　△六日鑛業取締久の濱支所

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩は南の風曇驟雨模樣、明日は南東の風曇驟雨模樣

無緣佛供養

平町社會事業助成會では昨年八幡小路共同墓地に無緣佛供養塔を建設したが今廿七日午後二時からこれが供養を行つた

列車、自動車に衝突
昨夜內鄕踏切りの椿事

平町二丁目運轉手酒井幸雄(二六)は昨二十六日夜十時七分頃助手草野又吉(二三)を同乘ハイヤー空車を運轉して內鄕村大字綴字白水地內常磐線踏切りにさしかゝつた際突然エンヂンが止まつて停車した瞬間！湯本發十時十三分下り急行列車が驀進して來たので兩名は車をそのまゝに飛び降り避難したが、車體は約十間餘列車にはね飛ばされて大破、列車はこれがため約七分遲延した、尙同踏切りは昨年二月にも慘事を惹起した魔の踏切りである

主家から盜む

勿來町山田乘雄(二六)は去月中より水戶市柵町旅館兼鮮魚商東屋に雇はれてゐたが廿四日同店のアイスクリーム代金十五圓と自轉車(價格三十圓相當)を窃取逃走し同日夜久慈郡河內村字町屋江橋屋料理店に登樓中町屋駐在所皆川巡査に逮捕さる

燈火管制球
防空演習に當面し軍人會の手で販賣

在鄕軍人會平分會では今二十七日午後七時からマルトモホールに於て來る防空演習に關する打合會を開催、燈火管制球豫約販賣に就て協議するが、右電球は軍人會の手で町當局と協議の上明二十八日より一齊に販賣(五ワット一個三十錢)を開始すると

痴漢と早合點し
低能女の叔父を毆る
勘違ひの制裁に罰金廿圓

小名濱町本町靑物商山田村井上字泔澤生れ澤田來(四二)は去る五月二十八日夜八時頃自宅で飲酒中、元と同家で子守をした低能の根本トク(三五)が『助けて呉れ』と悲鳴を擧げ乍ら馳込んで來たのを適切り痴漢に襲はれたものと思ひ戶外に立出で折柄トクを尋ねて通合せた同女の叔父同町定西熊田留吉(五三)を惡漢と早合點、拳固を揮つて同人の左耳、左頭部に全治要一週間の打撲傷を與へ、留吉に告訴されたが此程平區より略式命令で罰金二十圓に處

農事視察團

北會津郡門田村農會幹部十五名は來月一日午前十時自動車で來郡泉村玉露篤農家志賀源之助氏の農業經營を視察する

中堅講習生 農事實地講習
近く矢吹ケ原へ

郡下中堅農民講習生八十五名は來月二日から四日間柴田技手、內田書記引率の下に矢吹ケ原修練農場へ實地講習に向ふ

合併問題を俎上に
平、平窪懇談會概要 (3)

〔井上〕自分の鄕里である神谷村鹽部落は以前農民が相當窮迫したものだが現在では鐵道や郵便局に勤むる者が多くこれらの收入は年十萬圓以上に上つて居ると云はれ、それでゐて都會化されずかへつて農村としての良風が村內に漲つて居る

〔草野座長〕大部話しが進んだから全般に亘る質問はこれで打ち切り今後は平町で計劃して居る市制調査五部門に亘つて質問し各部長から應答されたい

暫時休憩の上再會、先づ酒井平町助役より負債未濟額並に運用金(合計三十七萬九千餘圓)から豫算內容の概要に就いて縷々說明あり次いで井上、馬目(雅)兩氏財政の全般を同樣說明、これに對し平窪側から種々數字的質問あつて產業、資源部に移る

〔野崎部長〕東北振興二大會社の設立によつて資源も出來るし、從つて產業方面も自然開拓されるであらう、純農村としては到底立つて行けぬから速に合併を圖られたい

と述べ更に多田井、吉田(五)兩氏から各方面に於ける生產高並に市制實施後に於ける生產物の價値に就いて說明後

荻原(敎育及社會施設)關內(警備衞生)坂本(土木運輸交通)

の各部長から夫々所屬部門に於ける施設及今後の改善方針を述べたに對し局部的の質疑應答

〔阿部政〕此際平窪側から合併反對の點を述べた方が今後の參考になるではないか

再び休憩の上再會(午後七時)阿部氏の提案に基き

〔平窪側〕平—平窪間新道路の開設や平町は南方に飯野田圃が開かれてその方面には發展の可能性は充分認められるが南方は現在以上發展の可能性は薄いではないか

其他各方面に亘る質問に對して平町側關係者がこれに答へ最後に井上議長から『決して純農村は破壞されないから……』と合併促進を强調して同七時半閉會

（完）

舊七月十二日　金曜　壬午　赤口　明　牛宿　新八月二十八日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　充分なる骨折は大なる功果をもたらすべき吉日▲二黑　小事なりとも投げ遣りすれば後悔あるべし▲三碧　萬事手違ひの生ぜんとする日思慮分別大切▲四綠　輕擧妄動せざれば相當の利ありて業昌の日▲五黃　緊張味をかかず勉むれば安全相談事にも吉▲六白　機を見るに敏なれば後日の福利を招くべし▲七赤　望みても起ち難く努めても成り難き不良日▲八白　苦慮して功成らず守靜が安穩病厄盜難警戒▲九紫　實直なれば盛運の功德あり迷心を起せば凶

二十八日(小名濱測候所發表)
日出　五、〇五　月出後　三、〇三
日沒　六、一一　月沒前　〇、〇六
滿潮後　一、三〇　干潮前　六、四〇
　　後　一一、二五　後　七、一五

隆德院新盆に相當り候處提灯その他供物等御贈與一切御辭退申上度く乍勝手以紙上御願申上候

平町紺屋町　加納邦武

謹告

亡父隆光院の新盆に相當り候處時節柄故提灯其他の供物等一切勝手乍ら謹みて御辭退申上候間不惡御諒承下され度願上候

磐城平町白銀町　齋藤角治

亡兒政雄儀新盆に相當候處誠に乍勝手提灯其他供物等固く御辭退申上度謹告候也

平町三丁目　大谷久藏

御會葬御禮

八月廿七日　植田町　喪主　鷲　清昇　親戚總代　織內司馬太郎

植田の新名所

鮫川川口に位置し四季の風光に富み眼下に太平洋を見晴し、白砂に綠の松林は實に天下の絕勝地の定評あり交通の最も便宜の位置にある鴨の湯鑛泉へ！

常磐線植田驛下車
…鴨の湯鑛泉旅館…
臨海館
植田町より十餘丁(自動車ノ便アリ)

鮫川橋より當館迄は(モーター舟)の連絡貸ボートあります。